

16日 火曜

マルコ



6:30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まり、自分たちがしたこと、教えたことを、残らずイエスに報告した。

6:31 するとイエスは彼らに言われた。「さあ、あなたがただけで、寂しいところへ行って、しばらく休みなさい。」出入りする人が多くて、食事をする時間さえなかったからである。

6:32 そこで彼らは、自分たちだけで舟に乗り、寂しいところに行った。

6:33 ところが、多くの人々が、彼らが出て行くのを見てそれと気づき、どの町からもそこへ徒歩で駆けつけて、彼らよりも先に着いた。

6:34 イエスは舟から上がって、大勢の群衆を眺めた。彼らが羊飼いのいない羊の群れになったので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。

6:35 そのうちに、すでに遅い時刻になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところで、もう遅い時刻になりました。」

6:36 皆を解散させてください。そうすれば、周りの里や村に行って、自分たちで食べる物を買うことができますでしょう。」

6:37 すると、イエスは答えられた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげない。」「弟子たちは言った。」「私たちが出かけて行って、二百デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか。」

6:38 イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて来て言った。「五つです。それに魚が二匹あります。」

6:39 するとイエスは、皆を組に分けて青草の

上に座らせるように、弟子たちに命じられた。

6:40 人々は、百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座った。

6:41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂き、そして人々に配るように弟子たちにお与えにした。また、二匹の魚も皆に分けられた。

6:42 彼らはみな、食べて満腹した。

6:43 そして、パン切れを十二のかごいっぱい集め、魚の残りも集めた。

6:44 パンを食べたのは、男が五千人であった。

「休みなさい」ということはマルコだけに記されています。イエス様はみ父の働きを地上で力強く進める、真の有能なしもべですが、このように人の真理や現実や健康状態をも考慮してこそ、主のわざが進められるということです。私たちも主の働き手として、健康や精神状態を互いに考えつつ、いたわりつつ前進して行きましょう。

しかしイエス様ご自身は、「深くあわれみ」とあるように、ご自分の休みよりも人々への愛がまわって行きました。そこで空腹な人々に奇跡を用いて食事を与えたのですが、これは単にあわれみかけなければならなかったでしょう。イエス様は神の国を宣べ伝えるために、このようなみわざを行ったのです。

イスラエルが荒野でパンを食べたように、イエス様もパンを与える方であり、またそのパンは永遠の命のためのパンであるということを表すためです。またそれは12のかごを満たすように、12のイスラエル部族を満たすものであり、さらには有り余る恵で異邦人をも救いで満たすということとです。

弟子たちは当初、自分たちが与えるとは考えて

いませんでした。しかし、主のみわざによって与える人となったのです。私たちも恵をもらうだけでなく、与える経験をしつつ、さらにそこから神の国の教えと力をいただきました。

①神のみここころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

